

HPV ワクチン

定期接種：小6～高1相当女子
キャッチアップ接種：1997～2005年度生まれ女子（2025年3月まで公費助成延長）

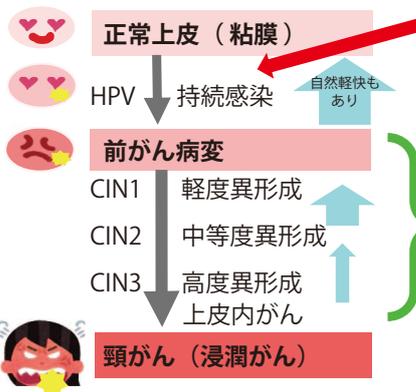


子宮頸がん予防のために必要なのは、ワクチンと子宮がん検診の両方です。そもそも、どうして検診で、頸がんの予防ができるのでしょうか？

婦人科部長 衛藤 貴子

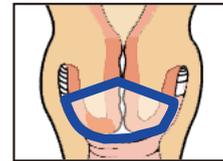
子宮頸がんの95%はHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染によるものです。50歳までに80%の女性が、一度はHPVに感染するといわれています。ほとんどは自然に消失します。持続感染となった場合に、前がん病変となります。前がん病変も多くは自然に軽快します。前がん病変が軽快せずに進行すると、頸がんになります。

HPV感染～前がん病変～頸がんの流れ



頸がんの予防法

- ① HPV ワクチンによる一次予防
ワクチンで HPV 感染を予防する
 - ② 子宮がん検診による二次予防
子宮がん検診（子宮頸部細胞診）で前がん病変の段階で診断
- 前がん病変の段階で治療することで頸がんへの進行を予防



例えば子宮頸部円錐切除術など

検診で

できること

前がん病変をみつけて、前がん病変のうちに治療することで頸がんを予防する

できないこと

前がん病変は予防できない
前がん病変の治療をすると、妊娠・出産に若干のリスクあり
頸がんの中の腺がんというタイプは、検診ではみつけにくい

HPV ワクチンで

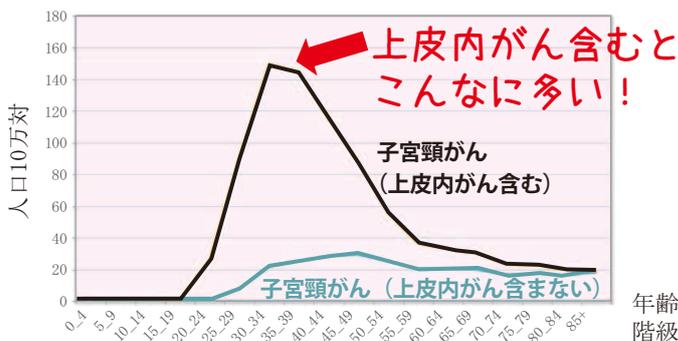
できること

ワクチンの型（2価・4価ワクチンでは HPV16/18）にまだ感染していなければ、その型の感染をほぼ100%予防し、その結果前がん病変や頸がんを予防する

できないこと

すでに感染している型には予防効果はない
ワクチンの型以外の型には基本的には効果はない（一部効果あり）

子宮頸がん（上皮内がん含む・含まない）年齢階級別罹患率



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）
子宮頸部 年齢階級別罹患率（全国推計値）2015年



第一薬科大学での講義の様子です。出張講義を承っています。

対象の方に、ご自身で十分に考えて、安心してワクチン接種をしていただけるよう、当院では有効性、副反応のリスクなどについての説明に努めています。

お問い合わせは婦人科外来まで
(病院代表) 092-541-4936